

「農林行政・経済雇用対策」について

津山誠心会議 津本辰己



質問 ↓農山村地域の振興施策が、津山市全体の経済活性化を押し上げ、津山の均衡ある街づくりにとって「一番近道」ではないかと考えるが。

答弁 ↓農家個々の経営努力のみでは、農

業の維持が困難な状況であり、集落営農による効率的な営農を行うために、農地の面的集積を行い、生産性の向上を図り、「地域農業の発展」と「地域活性化・まちづくり」に結びつけていきたい。

質問 ↓経済雇用対策事業について、「現状を打開する事業発注」と「将来を見据えた雇用対策事業」を二本柱に据えて、推進すべきではないか。

答弁 ↓中小零細企業に直接発注できる公共事業や、新たな雇用機会が生まれる事業を地域の実情に応じて実施することが必要と考える。

地方経済と公共事業について

津山新星会議 吉田耕造



質問 ↓地域高規格道路「空港津山道路」は当初計画と比較して、多少整備手法が変化していると聞いているが、どうか。

キロ以上の高速サービスを提供する道路整備である。未整備区間は、早期整備を図るため、地域高規格道路の水準を確保しながら、ミニバイパスや現道拡幅を組み合わせて整備する「現道活用型」について検討することも選択肢として考えている。

質問 ↓中心市街地活性化基本計画は、中心市街地を活性化するための計画であるはず。市民が夢や希望を抱き、民間投資を生む計画にすべきではないか。

答弁 ↓策定については、中心部の再生に資する内容に高めるため一部見直し、二十三年度に取り組む後期実施計画との整合性を担保し、国の認定を目指す。

さりげなく「一人暮らし老人の「見守り」を

市民と歩む会 村田隆男



質問 ↓一人暮らしの高齢者は何人、高齢者夫婦世帯の数は。孤独死や虐待、徘徊防止につながるボランティアの見守り、お助け隊ができないか、何が思いやりの行政と考えるか。

答弁 ↓一人暮らし高齢者は五千九百九十一人、夫婦世帯は四千五百三十一世帯。高齢者の見守り活動を進めるため、民間事業者との連携など先進事例も研究し、支援ネットワークの構築を進める。

質問 ↓組織機構改革で土木部を廃止し都市建設部に部の名称を変えただけ。また、経済文化部と農林部を統合し産業経済部に。なぜ、農林部廃止なのか。

答弁 ↓土木部は、道路やハコモノの新設が続くハード偏重のイメージから廃止とした。産業経済部は農林業と商業、工業などの連携強化と六次産業化の一層の推進を目指すものである。

公民館での飲酒を認めてはどうか

津山新星会議 米井知博



質問 ↓公民館の利用方法、数はどうなっているか。同じ地区にある分館の管理はどうするのか。公民館は社会教育法により設置されており、津山市の公民館は使用規則で飲酒を禁じて

いるため、各地区の一大イベントである敬老会も飲酒ができない。社会教育法が飲酒を禁じているわけではなく、他の自治体では認めているところもある。津山市も規則を変更すれば、飲酒可能となるのではないかと。

答弁 ↓公民館は生涯学習に関する事業や集会などに利用されており、市内に二十二の公民館と二十二の分館がある。分館については地元への払い下げも視野に入れて検討する。他都市では規約を定め、飲酒を認めている事例はあるが、飲酒については慎重に考える必要がある。